

1. 事業構想評価

(1) 事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況

目標	メニュー	指標	開始年度	目標年度	達成状況												備考				
					1年目(開始年度)			2年目			3年目			4年目				5年目			
					目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		目標値	実績値	達成率	
林業・木材産業の生産基盤強化	高性能林業機械等の整備		労働生産性(m <sup>3</sup> /人・日)の増加率		R9																
	木材加工流通施設等の整備		地域材利用量(m <sup>3</sup> )の増加率	R5		20	-	-												令和6年度へ繰越しているため、1年目の実績なし	
	木造公共建築物等の整備	木造化(補助率1/2以内)		事業費当たりの木材利用量(m <sup>3</sup> /百万円)																	
		木造化(補助率15%以内)																			
		木質化																			
	木質バイオマス利用促進施設の整備	未利用間伐材等活用機材整備		事業費当たりの木質バイオマス利用量(m <sup>3</sup> /百万円)																	
		木質バイオマス供給施設整備																			
木質バイオマスエネルギー利用施設整備																					
再造林の低コスト化の促進	低コスト再造林対策		人工造林面積のうち、人工造林のコスト低減を図る取組の面積割合(%)																		

(注)

- 「達成状況」には、各年の目標値、実績値及び達成率(各年度の実績値/各年度の目標値)を記載すること。
- 報告年度については、要領第6の1に基づくこと。
- 各メニューの達成状況における、目標年度の目標値には下線を引くこと。
- 目標値及び実績値のうち、該当がない年度は、「-」を記入すること。
- 天災又は自己の責に帰さない事由による火災等が理由で、達成率が著しく低いと判断されるメニューについては、本報告における評価対象外とする。なお、該当するメニューについては、本報告に準じ別途達成状況表を作成することとし、その理由を記載すること。

2. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率 (%)	年度	
林業・木材産業の生産基盤強化	木材加工流通施設等の整備	地域材利用量の増加	1,047	千m <sup>3</sup>	R5 (2023)	1,277	千m <sup>3</sup>	R10 (2028)				
		素材生産量の増加	924	千m <sup>3</sup>	R5 (2023)	1,247	千m <sup>3</sup>	R10 (2028)				
	特用林産振興施設等の整備	特用林産物に関する基本的方向	3,100	t	R5 (2023)	3,844	t	R10 (2028)				
森林資源の保護	森林環境保全の推進	森林被害の実態把握面積	23.6	万ha	R5 (2023)	23.6	万ha	R6 (2024)	23.6	100%	R6 (2024)	R7.3.31 県集計結果
林業の多様な担い手の育成	労働安全性の確保	素材生産性の向上	6.6	m <sup>3</sup> /人日	R5 (2023)	7.08	m <sup>3</sup> /人日	R6 (2024)	7.1	100%	R6 (2024)	R7.3.31 県集計結果
		災害発生件数(減少率)	31.7	件	R5 (2023)	25.3 (-20.2%)	件	R6 (2024)	32 (0.1%)	79% (-0.5%)	R6 (2024)	R7.10確認 福島労働局 公表資料
	人材の確保・育成・定着	研修会の参加人数(延べ)	127	人日	R5 (2023)	203	人日	R6 (2024)	141	69%	R6 (2024)	R7.3.31 県集計結果
林業経営体の育成	林業経営体育成 (林業機械リース支援)	素材生産量の増加	924	千m <sup>3</sup>	R5 (2023)	979	千m <sup>3</sup>	R6 (2024)	920	94%	R6 (2024)	R7.3.31 県集計結果
		素材生産性の向上	6.6	m <sup>3</sup> /人日	R5 (2023)	7.08	m <sup>3</sup> /人日	R6 (2024)	7.1	100%	R6 (2024)	R7.3.31 県集計結果

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績／目標値とすること。ただし、現状値より数値を縮減する(減少させる)ことを目標とする指標については、目標値／目標年度の実績とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2) 総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
林業・木材産業の生産基盤強化		
山地防災情報の周知		
森林資源の保護	県内全域の森林被害を把握し、森林環境保全の推進を図るため、県内全7地区に森林保全巡視員を配置し、定期的なパトロールを実施した。	自然災害等による森林被害が依然として発生していることから、引き続き、森林保全のための定期的なパトロールを実施し、森林被害の実態把握に努めていく。
林業の多様な担い手の育成	当県の地域林業を担う人材を育成するために、林業アカデミーふくしまにおいて市町村および林業事業者を対象に研修を実施した。 林業労働災害発生防止を図るため、林業労働災害防止協会福島県支部が安全衛生指導員を委嘱し、森林整備等の現場の巡回を行い、労働安全について指導した。	研修受講生からの意見等を踏まえ、より実践力が身につくような研修内容に改良する。 森林整備面積の増加に伴い労働災害発生件数も増加する可能性があるが、巡回指導の徹底等により発生を抑制していく。
林業経営体の育成	リース支援事業において、県内の1事業者に対して、高性能林業機械1台の導入支援を行った。導入初年度の実績としては、当該事業者の生産能力・安全性・作業効率が向上することにより素材生産量及び素材生産性の向上も見込まれたが、冬期間における予期せぬ豪雪により、計画していた事業量の実施ができず、対前年度と同程度の水準に留まった。	予期せぬ豪雪の影響による事業の中断を想定し、年間の事業量の配分について再考し、導入した高性能林業機械を活用した作業システムの改善等を図り、5年後の目標達成に向けた更なる生産体制の構築を行う。
再生林の低コスト化の促進		

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記載するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記載すること。
- 4 行については、適宜加除すること。